

第6回 宮古地域水産シンポジウム プログラム

1. 主催者挨拶 (水産研究・教育機構 理事 青野英明) (代読)
13:00-13:05

2. 講演発表 (時間は質疑込み)
 - ①循環式陸上養殖システムを用いた新たな対象種への挑戦
(水産技術研究所養殖部門第2技術開発グループ長 森田哲男)
13:05-13:30

 - ②海洋酸性化がキタムラサキウニの初期発生に与える影響
(水産技術研究所環境・応用部門亜寒帯浅海域グループ長 村岡大祐)
13:30-13:55

 - ③サケ資源の状況と回復に向けた取組
(水産資源研究所さけます部門本州普及課長 戸田修一)
13:55-14:20

 - (ポスター発表の概要をスクリーン上で説明) 14:20-14:45
(ポスター発表および休憩) 14:45-15:10

 - ④宮古日出島からホタテとともに幸せを届ける
(株)隆勝丸・宮古漁協理事 平子昌彦)
15:10-15:55

 - ⑤人口減少下における漁業就業者対策・地域活性化の取組-東北地方を中心に-
(水産技術研究所養殖部門養殖経営・経済室長 三木奈都子)
15:55-16:40

3. 総合討論 16:40-17:00

ポスター展示（担当者）

14:45-15:10（休憩時間と兼ねる）

- ①コンブ藻場における磯根資源の長期モニタリング
（重茂漁業協同組合種苗生産課 後川 隆，木川勇貴，木村直生，栗津 快，
水産研究・教育機構 宮古庁舎 八谷光介）
- ②マコンブ藻場形成要因としてのキタムラサキウニ摂食圧
（水産技術研究所環境・応用部門亜寒帯浅海域グループ 主任研究員 八谷光介）
- ③さけます部門本州技術普及課の取組
（水産資源研究所さけます部門本州技術普及課
戸田修一，大本謙一，高橋 悟，横田泰明）
- ④岩手県内の河川におけるサケの捕獲時期の変遷
（水産資源研究所さけます部門増殖グループ 主任研究員 八谷三和）
- ⑤宮古湾で確認されたマサバ・ゴマサバによるサケ幼稚魚の捕食
（水産技術研究所環境・応用部門亜寒帯浅海域グループ 主任研究員 佐々木系）
- ⑥ワカメ養殖漁場への栄養塩供給予測手法の開発（共同：水産機構）
（岩手県水産技術センター漁場保全部 上席専門研究員 加賀新之助）
- ⑦過去20年における岩手丸トロール調査の漁獲物組成と海洋環境との関係
（岩手県水産技術センター漁業資源部 主任専門研究員 森 友彦）
- ⑧マガキの殻の形と身入りの関係
（水産技術研究所環境・応用部門亜寒帯浅海域グループ 主任研究員 進士淳平）
- ⑨サクラマス of 三次元形状測定技術を用いた脂肪含有量の非破壊的推定
（岩手大学理工学部 助教 盧 忻（ルウ シン））
- ⑩非破壊生体電気インピーダンス測定によるサクラマスの鮮度の推定
（岩手大学 大学院 王 卓琳）
- ⑪三陸沿岸域におけるムラソイ種群の遺伝的類縁関係と生態学的特性
（岩手大学 大学院 若尾鷹幸）
- ⑫海面トラウトサーモン養殖種苗の海水適応能向上に関する研究
（岩手大学 大学院 川渕拓斗）
- ⑬海水順応性に着目したサツキマスの選抜は成長と海水中での生残を高める
（水産技術研究所養殖部門第2技術開発グループ 主任研究員 今井 智）